へ13
3693
5

へ13
3693
6

へ13
3693
5

門 へ13
號 3693
巻 4 5

弓勢名誉畫
俵藤太秀郎

弓張月春廼宵栄

三編 上之巻

西馬譯
國輝画

若林堂上梓

仏經の如是我聞小説乃話解むかしくのわさとき・ト八四国と廻る猿蟹の咄より殘て何世の御時今ハ昔掬も其後去程にも稗史は發語の紋切形に七劇場の烏は時世く此末ハどうなの後より踊る趣向と見ぬ先ハ不知であるさ根あり艸も樂屋坂あらゆる八人藝仕掛と見せる手品の種本肴官に旨ふかけるが當様のあれと営業は書買がねかるね望僕等が二百三孔の漬込茄子より噛ちあく味のある古澤庵乃功の者書やくと催促に華は庖丁執の俎刻んで出した初編二編夜長の茶づけれ口ふ合ひお替り好需乃三倍目給仕の盃は弓張月横ふ雁の文字を並べて引明方の口繪は半張まで覚きらね寢言の演條其ハまあ白湯。

嘉永三庚戌初夏稿成
仝四歳辛亥孟春發市

樂亭西馬題

為朝の室 白縫姫
阿曽三郎忠国
少納言入道信西
蚍驚剱影便迸死
馬悪衣香欲噛人
六條判官源為義

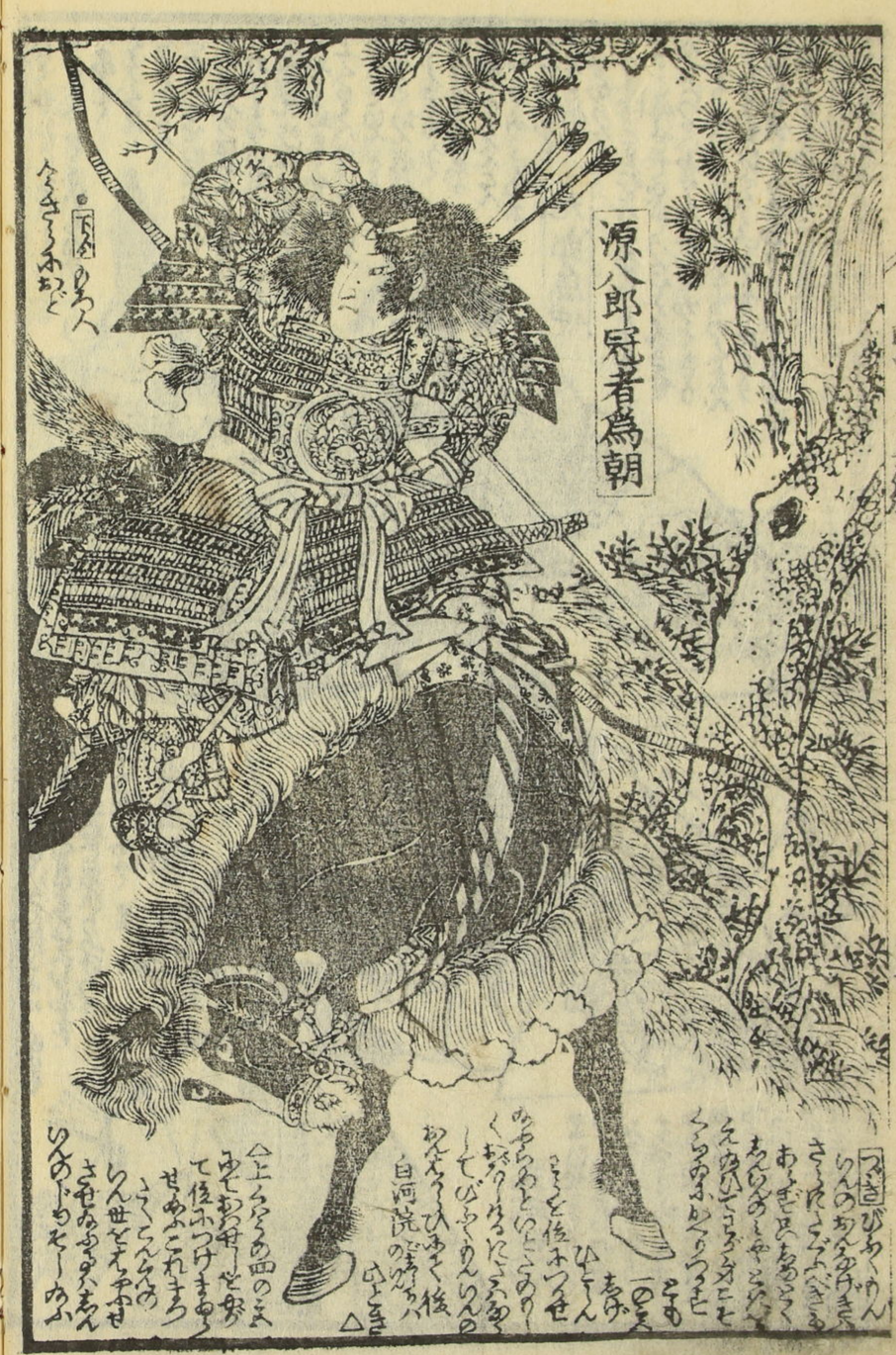
呼子鳥
源八郎冠者為朝

比良嶽山中楊梅瀧變化
為義馬飼呑市

関白
源為義

判官爲義
四郎頼賢
七郎爲茂
六郎爲宗

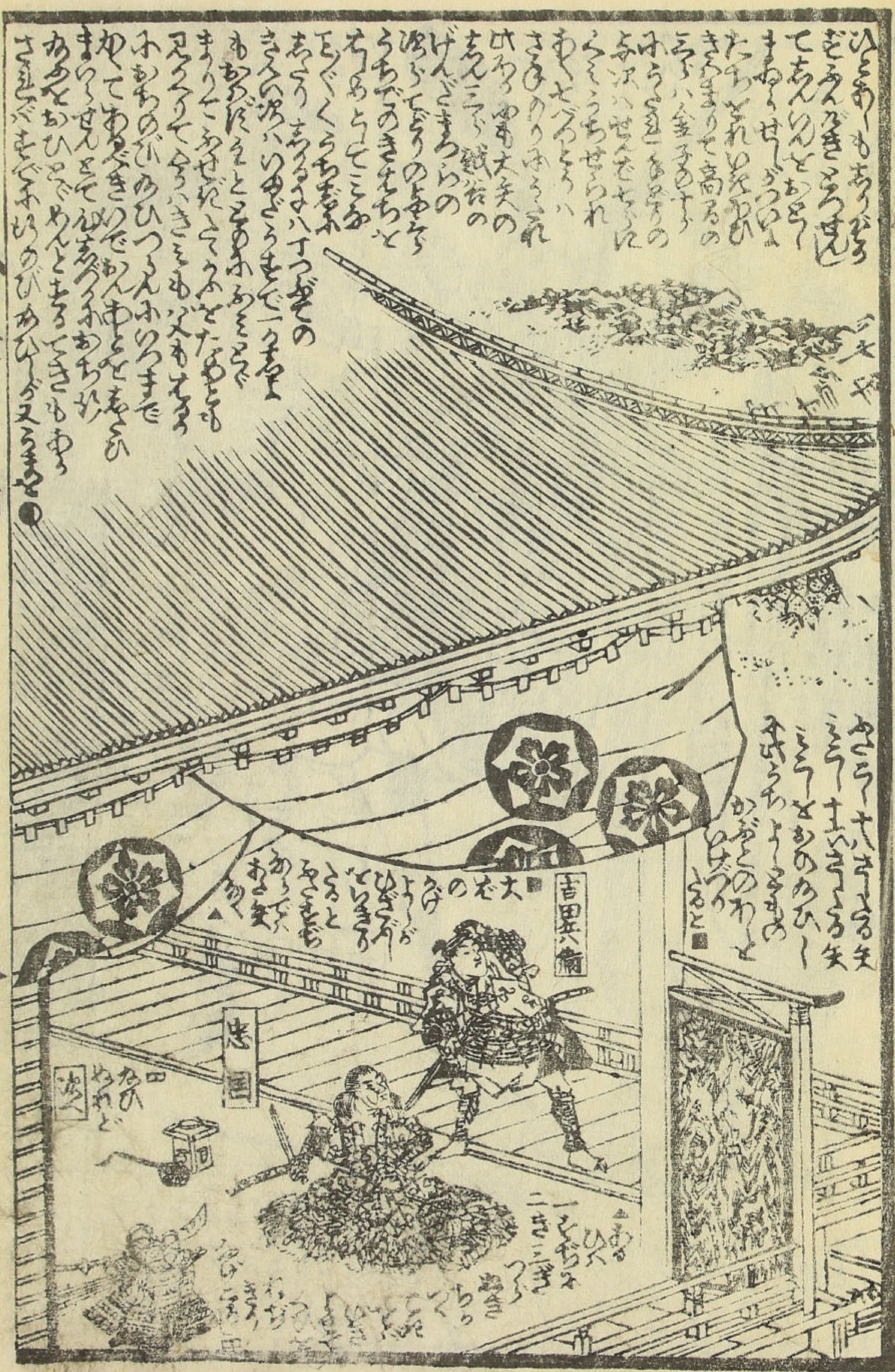
九郎爲仲
八郎爲朝
五郎頼仲

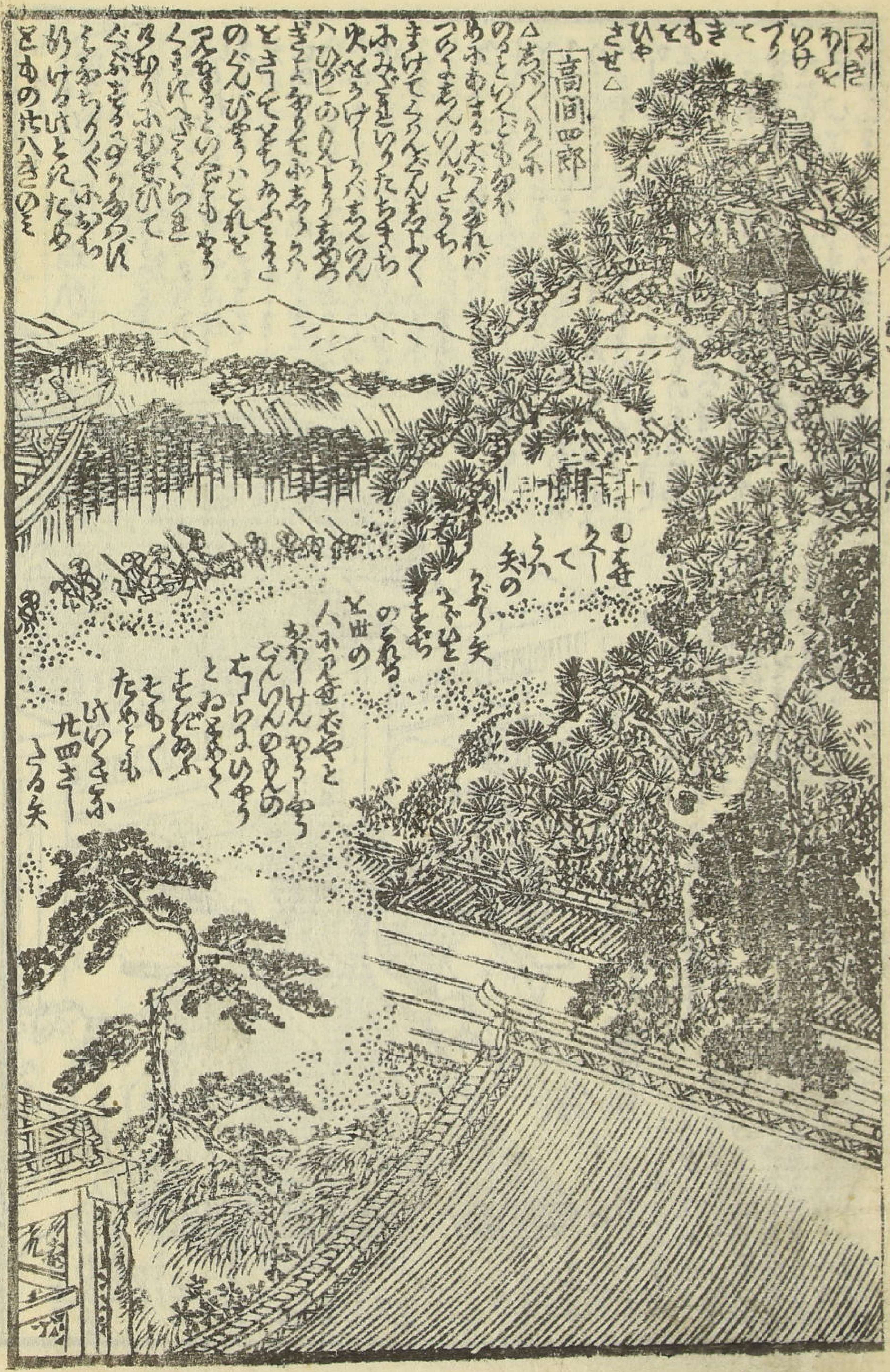

源八郎冠者爲朝

八町礫紀平次大夫

八代
阿曽忠国
吉田兵衛

白ぬひ
高面四郎





高間四郎

白ぬひ
八代

野風

八代
白ねひ

嘉永八乙卯春新彫目録

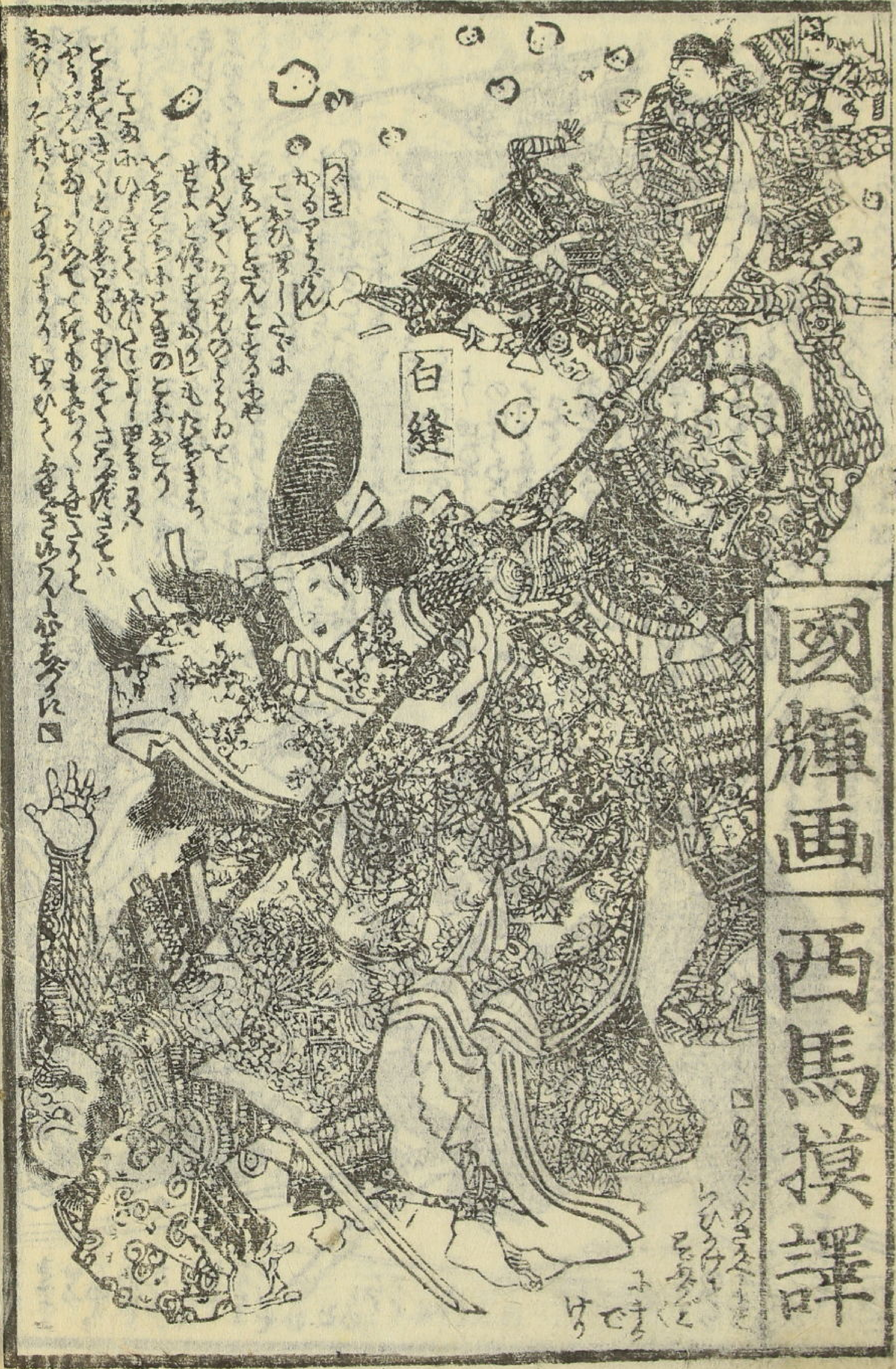
竹雀千代咢
西馬補案
國輝画圖

聖徳太子
大和鏡
万亭應賀作
一壽斉國貞画

三鱗形
鎌倉双帋
西馬作
國輝畫

雲龍
九郎
偸盗
傳
故人三馬遺稿
増補西馬案
画工一勇齋

地本草紙問屋
とうりあぶら町
笑壽屋庄七版



へ13
3693
6

門 へ 13
3693
巻

弓張月春廼宵栄

三編 下の巻

西馬 述

国輝 画

芝神明前
若狭屋
壽櫻

白縫姫

八町礫紀平次

八幡宮
為朝

馬鹿者市

呑市

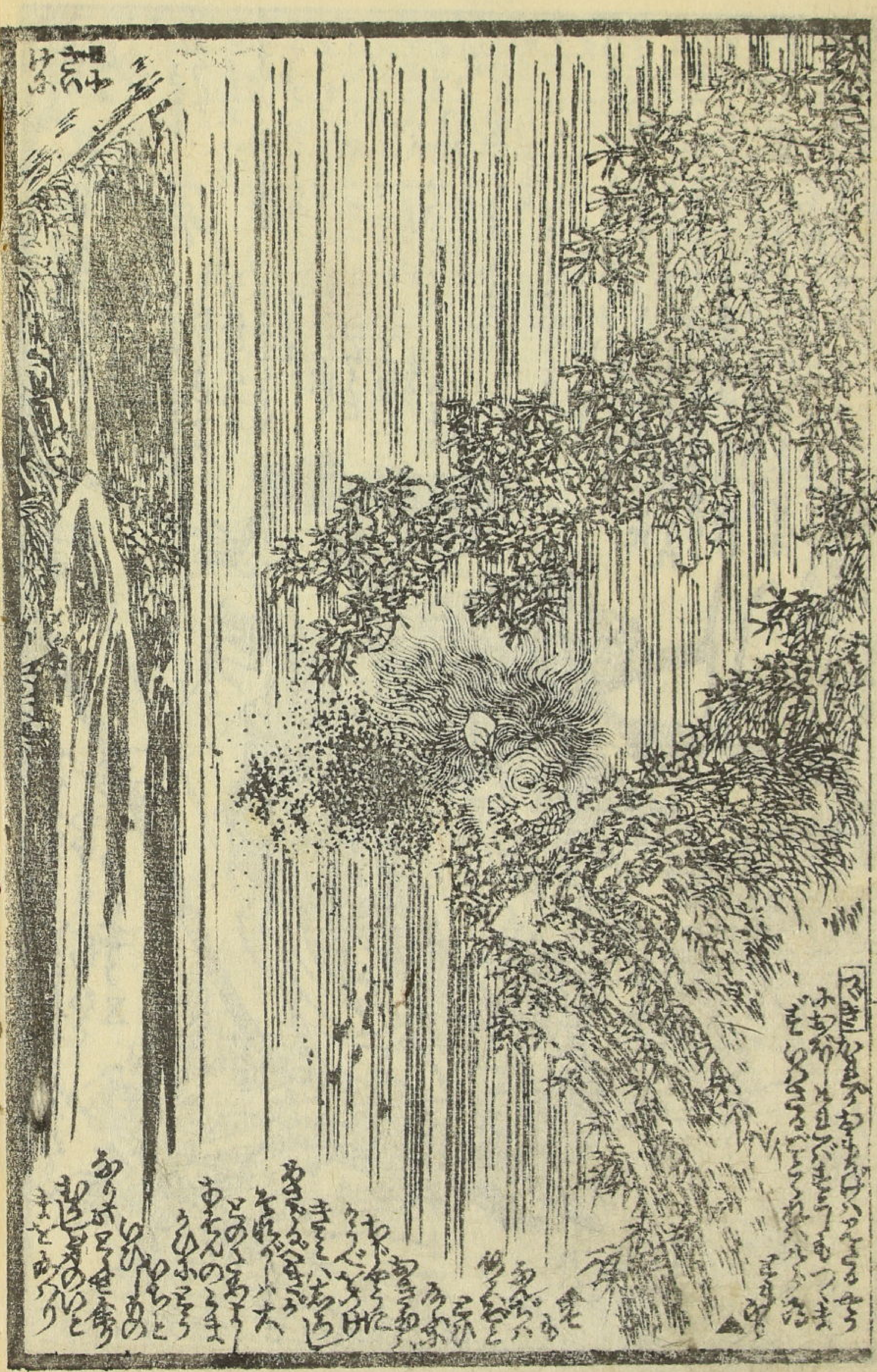
八郎為朝

八郎爲朝
谷市

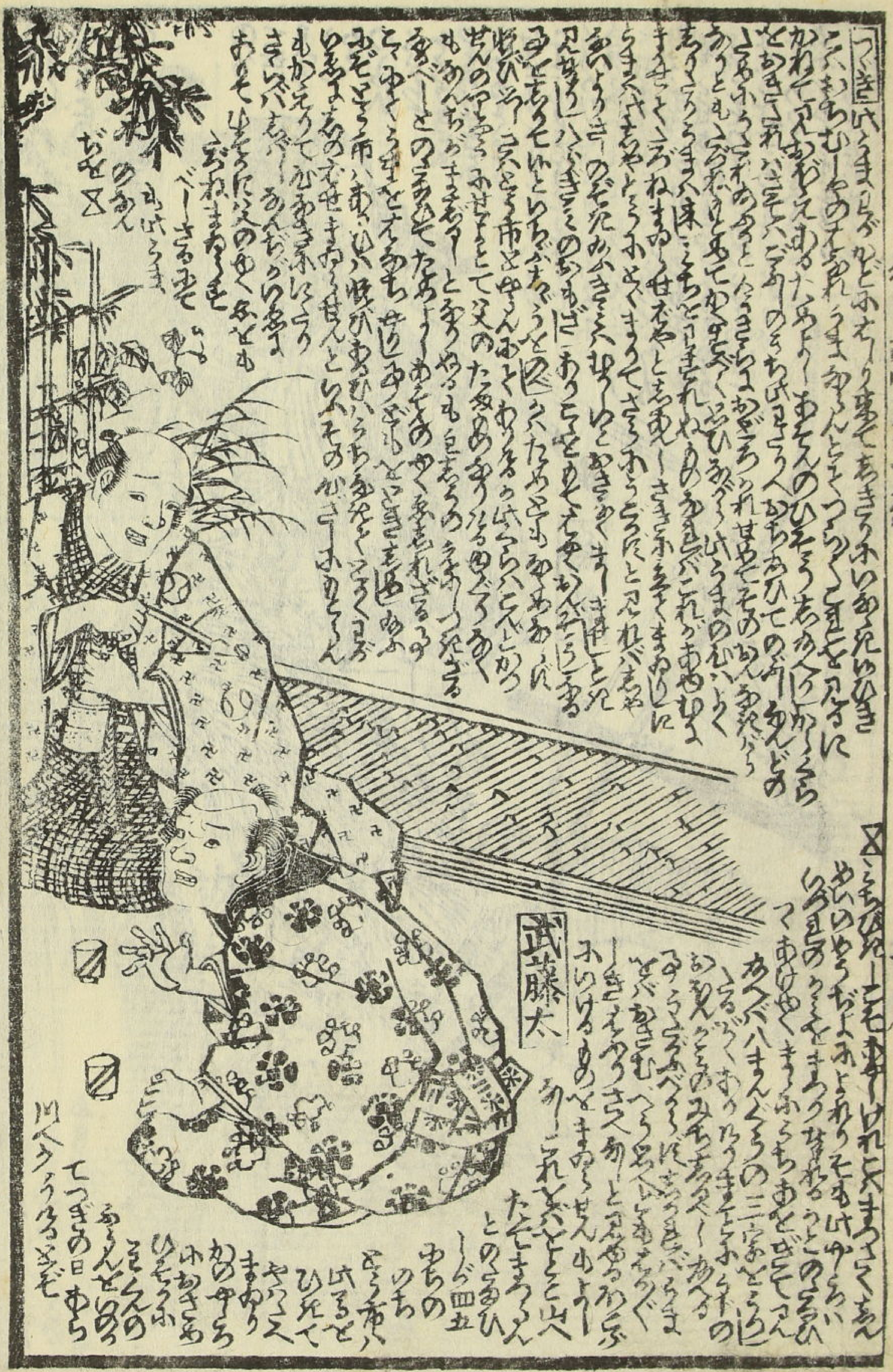
為朝

ひらの嵐

為朝

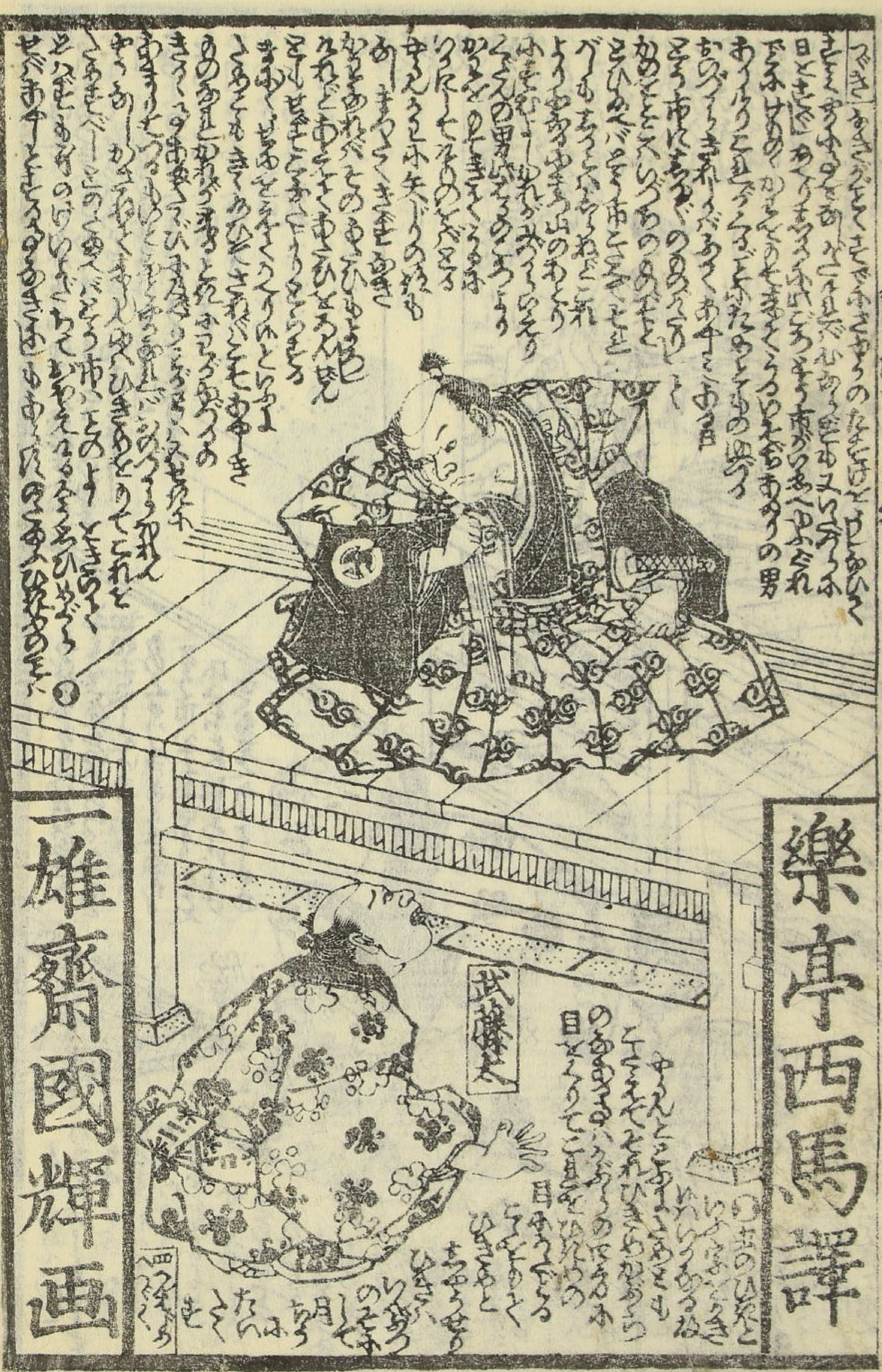


八郎為朝
谷市


武藤太

烏朝

武藤太



錦昇堂新發行目録

西馬譯
弓張月春霄栄
國輝画

樂亭西馬作
戀衣娯雜史
芳玉圖画

笑くさ日記
仙果作
國輝画

小夜衛白波草紙
仙果作
芳虎画

東錦繪草紙問屋 照降町 恵比壽屋庄七梓